

歴 史 通 信

「日本を今一度せんたくいたし申候」～坂本龍馬～



皆さんお待たせしました！やっと「坂本龍馬」の回がきました。実は坂本龍馬は大好きなのですが、今まで書かなかつたのは理由がありまして、人気がありすぎて、研究者が多すぎる！

その結果「諸説が多すぎる！」という問題点がありました。簡単に言えば、「実はあれはウソ

らしい」「実はこうだったらしい」という話が多すぎて何が正しいかがたびたび変化するので、ここで書いてもすぐに間違っているというご意見が多数出るだろうな～と思ったからです。ということで、今回は史実を追求するのではなく、「こんなスゴイことをした人って言われてるよ！」という体で書きたいと思います。そう！これは社会科教師にあるまじき「逃げ」です（笑）。でも歴史を学ぶ上で大切なことの一つは「私もそんな風に立派に生きたいな！」「あんな風に人を幸せにしたいな」と憧れを持ったり、生き方を学ぶことだと考えますので悪しからず。

坂本龍馬は天保六年（1835年11月15日）に土佐で生まれ、慶応3年（1867年11月15日）に30代前半の若さで亡くなつたと言われています。（これも諸説ありなのですが、面倒なので次からは割愛します。）気づきましたか？なんと生れた日と亡くなった日が同じなのです。ここからも坂本龍馬のスゴサがじみ出でますよね。

龍馬と言えば、モテモテではないですが、素敵な女性に愛された人というイメージです。大体歴史上「偉人」といわれる人は多くの人に愛されているイメージがあります。みなさん！立派な人になりたかったら、みんなに優しくです！

意外だと思うかもしれません、龍馬は子どもの頃、ものすごく落ちこぼれだったそうです。楠山助塾という学校に通うも、できが悪すぎてすぐに退学になりました。勉強どころか、泳ぐこともできなかったそうです。ただ、龍馬には強い味方がいました。素敵な女性1人目、姉の乙女です。乙女姉さんは水を怖がる龍馬の腰に縄をつけ、反対の縄の先を竹竿に結びつけ、家の近くを流れる鏡川に投げ入れて無理やり特訓をさせたり、読み書きを教えたりと鬼の特訓をしたそうです。ちなみに乙女姉さんは男もビビる超強い女性だったそうです。そして毎日鍛えられた龍馬も才能が開花します。地元の日根野道場でメキメキ剣術の腕をみがき、そこで「小栗流和兵法事目録」を伝授されます。つまり極めたということです。そして、江戸へ剣術留学に出ます。これはものすごいことで、当時、藩（今の都道府県）が違えば外国のようなものでした。脱藩といいますが、他藩に勝手にいけば死刑になることもあります。普通の暮らしをしていれば、他藩の人とは一生会わない時代です。そんな中、龍馬は江戸留学が認められる腕前だったのです。当時、江戸は日本中から剣術の強者が集まる場所だったので、江戸には50を超える剣術道場が立ち並び、その中でも三大道場の一つと言われる北辰一刀流で有名な千葉道場に入ります。そこで、すごい勢いで腕をみがき、あろうことか、龍馬は「北辰一刀流長刀兵法目録」を受け、塾頭になっちゃいます。さらにもう一つの江戸三大道場である神道無念流の斎藤道場の塾頭である江戸最強剣士との呼び声高かった桂小五郎と対戦します。そこで、1本は取られたものの、2本を取り返し、龍馬が勝ったそうです。（2対3で桂が勝ったという説もある）ちなみにこの桂小五郎は本当に化物だったので、後に京都で壬生の狼と恐れられた新選組の局長となる近藤勇も若かりし頃に桂と戦い、「恐ろしい以上、手も足も出なかつたのが桂小五郎」と言っています。勝敗は別にして、その桂と渡り合つた龍馬がいかに強かったかが分かります。また、出会いと言えば後に龍馬はもう一人の重要人物である西郷隆盛にも会っています。龍馬は西郷の印象を「われ、はじめて西郷を見る。その人物、茫漠としてとらえどころなし。ちょうど大鐘のごとし。小さく叩けば小さく鳴り。大きく叩けば大きく鳴る」と書き残しています。簡単に言えば、底の見えないスゴイ人物だということです。この後に幕府を倒す薩長同盟の二人のリーダーと出会っているのです。薩摩藩のリーダーとなる西郷隆盛、長州藩維新志士筆頭となる桂小五郎。この出会いが今後の日本を大きく動かします。

時代は少しさかのぼり文久2年（1862）3月24日、沢村惣之丞と共に坂本龍馬は脱藩します。脱藩は先ほど記した通り重罪です。これを龍馬はこの後も何度もするので大した人物です。脱藩後各地を転々とし、龍馬は江戸の千葉道場に身を寄せます。ちなみにこの千葉道場の娘である素敵な女性2人目千葉さな子とは婚約をしたと言われています。恋愛結婚などなかつた時代にステキな恋があったのでしょうか。そして、文久2年（1862）10月にさな子の兄である千葉重太郎と共に、軍艦奉行並、つまり幕府の役人である「勝海舟」を暗殺しようと氷川町の屋敷に向かいます。この

勝海舟とは、後に江戸で薩長と幕府の戦闘が今にも起ころうとしたとき、西郷隆盛を説得して無血開城で一滴の血も流させず戦争回避した伝説の人物です。その人物を龍馬は暗殺しに行こうとしていたところが面白い。しかし、勝海舟はあろうことか、暗殺しに来た龍馬に講義をし、世界の広さを教えます。その話があまりにも面白かったため、龍馬はその場で勝海舟の弟子になります。今よりもはるかに武力が物を言う武士の時代に、龍馬や西郷を説き伏せた勝海舟の話術はこれもまた化物だと思います。私もそんな授業ができたらなとすごく憧れます。

1866年1月21日、坂本龍馬が薩摩と長州を引き合わせて薩長同盟を成立させます。これが幕府を倒し、明治時代をつくるのですが、実はこの薩長同盟は絶対にありえない話だったのです。実はこのとき、薩摩と長州はとても仲が悪かったのです。簡単に言えば、殺し合いをする仲です。実は長州は幕府と戦争中でした。そして、薩摩は幕府側という立場をとっていました。というより、2年前、京都御所の蛤御門で薩摩・会津と長州は戦争をしています。この蛤御門の変で松下村塾で吉田松陰の教えを高杉晋作などと共に受けた久坂玄瑞なども死んでいます。この戦争で負けた長州藩士は薩摩藩のことを強烈に恨んでいました。だから「薩長が同盟を結んだら幕府を倒せるかも」と思う人はいても、「あの薩長が仲直りする」なんて考える人は中々いなかつたでしょう。その不可能を可能にしたから龍馬は偉人なのでしょう。どんな方法を使ったのか！ポイントは「利」です。感情で人を動かすのは難しいですが、利で人を動かすのは容易です。簡単に言えば、長州は「米」はあるけど、「武器」がなくて滅びそう。薩摩は「武器」はあるけど、「米」がなくて困っている。もうお分かりですね！そこに龍馬はビジネスチャンスを見出したのです。あれ！？ビジネス？龍馬は武士じゃないの？と思いましたよね！実はこの頃、龍馬は日本で最初の株式会社と言われる海援隊の前身、亀山社中をつくっていたのです。つまり、商人のようなことに興味を抱いていたのです。本当に破天荒ですね。しかし、その目の付けどころが天才なんです。戦争は「武力」ではなく、勝敗を決めるのは「金」です。戦争において、「素人は戦略を語る、プロは兵站を語る」と言いますよね。そうした方法により薩長のつながりをつくり、最終的に慶応2年（1866）1月10日、西郷と桂が薩摩藩城代家老小松帶刀邸で同盟の話し合をします。しかし十日以上交渉は進みません。そこに龍馬が乱入し、西郷隆盛・桂小五郎両者を説き伏せ、1月21日薩長同盟を成立させます。

その後は一気に歴史が動き、形勢は逆転、幕府が劣勢に立たされ、大政奉還へと向かいいます。その大政奉還に大きな影響を与えたのも龍馬が考えた「船中八策」です。

龍馬は他にも数えきれない程の逸話や名言を残しています。例えばマンガ『銀魂』に出てくるお登勢は実際に龍馬が身を隠していた寺田屋の女将ですし、寺田屋に預けたおりょうは龍馬の妻になっています。この素敵な女性3人目おりょうと薩摩旅行をしたのが日本最初の新婚旅行と言われています。他には、龍馬がつくった海援隊の船いろは丸が紀州藩の船とぶつかり、沈没した事件で、龍馬は紀州藩55万石という強大な藩相手に脱藩浪人の立場で大立ち回りをしました。紀州藩が見舞金として千両出すと言ったら、船には高価な銃や金塊が大量にあった。それを全て保障しろと言う。当然大藩である紀州藩は無視して長崎へ去る。すると、龍馬は長崎まで追いかけ、民衆に紀州を貶める歌を流行らせて世論を味方にし、紀州藩が知らない国際法である万国公法を盾にし、五代友厚も巻き込み、後に三菱財閥をつくった岩崎弥太郎を使い、イギリス海軍の提督を連れてきて、最終的に紀州藩から7万両をぶんどります。ちなみに現代になって、沈んだいろは丸を調査したところ、銃も金塊もなかったそうです（笑）。

そして慶応3年（1867）11月15日、龍馬は近江屋で何者かに暗殺されます。この犯人は未だに謎のままです。龍馬が死に、そこから日本は怒涛の勢いで時代が動きます。壬生義士伝で有名な鳥羽伏見の戦い、るろうに剣心で有名になった赤報隊相楽総三の悲劇、勝海舟の江戸城無血開城、少年白虎隊悲劇の会津戦争、新選組副長土方歳三の単騎突撃で有名な五稜郭の戦い、そして大変革明治維新、日本が経験する初めての本格的国際戦争である日清戦争、近代において有色人種が初めて白人国家を打倒し、アジア・アフリカの植民地に希望を与えた日露戦争、後ろを振り向く間もなく、日本は前だけを見て進んで行きます。そのため坂本龍馬はいつしか歴史から忘れ去られていきました。それをもう一度日本人に思い出させたのが、司馬遼太郎の著書『龍馬がゆく』です。歴史書ではなく小説なのですが、みなさんも是非一度読んでみてください。私も昔読んだときは感動して勢いで高知に行き、龍馬が世界を見た桂浜から太平洋を眺め、龍馬が愛した「司牡丹」という酒を買ってきました。高知はすごいですよ！一両足、『夏草の賦』長曾我部元親。『功名が辻』山内一豊・千代。土佐藩士の後藤象二郎に板垣退助、四賢公藩主山内容堂に参政吉田東洋。土佐勤王党盟主の武市瑞山。とにかくすごい人がたくさん！ちなみに大河ドラマの龍馬伝もおもしろかったです。